乗円寺 寺報

2026年 1月
年始号
寺報から訊く 寺報No48

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。穏やかな一年となりますように、お祈り申し上げます。

これから寒い日が続いてまいります。お体を大切に、心身ともに健康に過ごしていきましょう。

裏面には、昨年の報恩講法話レポート有！

●令和七年報恩講・永代経勤め御報告●

昨年の当寺の報恩講・永代経勤め（十月四日、五日）は、久し振りに土日の開催となりました。休日ということもあり、娘さんやお子さんと一緒に来られた方もいらっしゃいました。残念ながら二年連続で雨となってしまいましたが、多くの方にお参りいただきました。厚くお礼申し上げます。

講師は横浜からお越しの「なごみ庵」の浦上さん、そして何回かお話しいただいている人気の西定寺・住職の定舎さんにお話いただきました。当寺の報恩講・永代経では、さまざまな方のお話を聞けるようにしております。一緒にお話を聞きながら、少しずつ勉強していきましょう。来年もどうぞお楽しみに。

●乗円寺のお宝「六字名字の旗」試験問題に出題●

加賀の一向一揆の時代、永正三年（一五〇六年）に戦国大名・朝倉氏と戦った一揆側の乗円寺二世・永乗が書いたものと伝えられる「六字名号の旗（南無阿弥陀仏）」が、当寺・乗円寺にあります。日本の歴史の本に取り上げられたこともあります。昨年は、出版会社の方が来られ、静岡県の中学三年生向け模擬試験の出題のために撮影していかれました。この旗は（今は掛け軸）、蔵から久々に出してきましたので、しばらく大広間に掛けておこうと思います。お越しの際は、ぜひご覧ください。

●乗円寺の風景を撮影していただきました●

以前、寺報の「乗円寺の門徒さん」でご紹介した中村漢方薬局の中村正人さんに、乗円寺の門前の風景写真を撮影していただきました。撮影していただいた写真は、乗円寺本堂横の廊下や納骨堂に飾ってあります。プロ顔負けの味わい深い写真となっています。何枚かございますので、こちらもぜひご覧ください。

住職の独り言 ～お数珠・お念珠～

先日お墓参りに行った時に、そこにいらっしゃった方が、私が九歳の時に得度（僧侶となるための出家の儀式）した時の記念のお数珠を持ってお参りされていました。だいぶ前のことなのに、大切に持って使って下さっていたこと、嬉しく思いました。

普段、皆さんはどのようなお数珠を使っていらっしゃるでしょうか。親御さんからもらったもの、自分で購入したもの、なんとなく家にあるもの、さまざまあると思います。良いもの、悪いものといった区別は一切ありませんが、自分の手にあるものは、その人の手にある歴史や想いも含め、大切にしたいものです。ちなみに、私が得度した時にお寺から記念としてお渡ししたお数珠は、赤っぽい落ち着いた色のお数珠です。

お数珠は念珠（ねんじゅ）とも言います。お参りをするのですから、私は「念珠」というほうがしっくりきます。お数珠の由来にはいろんな説がありますが、仏前に合掌や礼拝するときに使うものですから、心身ともに姿勢を整え、正しくお参りすることが大切です。お葬式に喪服やその場にふさわしい格好で行くのと同じように、それがその場の礼儀であり、敬いの形です。作法など正しく形を整えることで、正しい心が出来てくるのだと思います。

浄土真宗の教えとは少しそれますが、珠の数は煩悩の数である百八個が基本とされ、煩悩を絶つためこの数になっているそうです。実際はそんなに多くなく、その半数の五十四個、四半数の二十七個などがあり、二輪のものと、一輪のものがあります。宗派によっては、お参りの時に念仏の数を数えるために使用する場合もあるようですが、浄土真宗ではそのような使い方はしません。

よく聞かれる持ち方ですが、女性用によくある長い房の二輪は、二つの親珠（大きい珠）を親指で挟み、左側に房を下げます。一輪の場合は、親珠を下にしてかけます。持つときは左手に持ちます。宗派によっていろいろと違いがありますが、浄土真宗大谷派の正しい作法はこのようになっています。

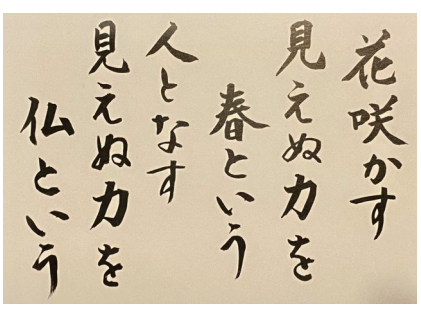
お数珠は切れることがあります。お参りしていていきなり切れたりすると、「何か嫌なことが起きるのでは」とドキッとされる方もいるかもしれませんが、大丈夫です。私も年に何回か切れますし、新しいものであっても紐が乾燥していると切れる場合があります。私たちの浄土真宗のお参りは、「健康になりますように」「良いことがありますように」とお願いするお参りではありません。人間の私欲の部分よりも、より大きなもの、繋がりやご縁によって自分があることを見つめる、感謝のお参りです。いただいているご縁を大切にしているのですから、お数珠が切れたからといって「嫌なことが起きそう」などとこだわらなくていいのです。大切なお数珠が切れてしまった場合は、仏壇屋さんに持って行って、繋ぎ直してもらうと良いかと思います。

昨年、報恩講にお伺いさせていただいたお宅には、次の言葉を紹介させていただきました。

花咲かす見えぬ力を春という
人となす見えぬ力を仏という

藤元正樹先生のお言葉です。

新しい年を迎え、お参りすることもあるかと思います。はかることのできないご縁、因縁によって今の私があるのですから、今を丁寧に。はじまりの時だからこそあらためて、身なりを整え正しく、お参りをしていきましょう。（住職）



発行所：乗円寺 金沢市石引1丁目4-20 TEL076-221-3421 Fax076-221-3449 E-mail:info@jouenji.net
印刷協力：川場印刷
ご要望、ご感想はお気軽にお問合せください。寺報、発送希望がございましたらお気軽に。
乗円寺 公式LINE 右のQRコードを読み込み登録！

令和七年度
報恩講レポート!

十月四日(土)報恩講
令和にお寺、始めました

倶生山慈陽院　なごみ庵
住職　浦上哲也師

報恩講　特別法話一部　抜粋版

皆様、おはようございます。ただいまご紹介にあずかりました、慈陽院なごみ庵の浦上哲也と申します。　よろしくお願いいたします。　最初に讃題、今日のお話のテーマとなるお経典の言葉を読み上げしたいと思います。

前に生まれん者は後を導き、
後に生まれん者は前を訪へ。
連続無窮にして、願はくは
休止せざらしめんと欲す。
無辺の正死海を尽くさんが
ためのゆえなり。

この御本は親鸞聖人が書かれた教行信証、正式なタイトルはちょっと長いです。顕浄土真実教行証文類という早口言葉みたいな言葉の書物のタイトルですけれども、ここに書いている通り、教行証文類とか、あるいは書店なんかですと、教行信証というタイトルで解説の本なんかはよく見られますけれども。そこに書かれている一文です。

じゃあこちら親鸞聖人のオリジナルの言葉かというと、そうではなくて、書いてありますね。道綽禅師、親鸞聖人がお選びになった浄土七高僧という、浄土の教えを説き伝えくださった七人の尊いお坊様方がいらっしゃいます。インドの方が二人と、中国の方が三人と日本のお坊さんが二人で七名の、その真ん中ですね、全体の四番目の中国の道綽禅師というお坊さんが安楽集という書物を書いていて、そこに書いてあるのが、前に生まれん者はという一文でございます。

もしかして皆さん、こちらの資料をルビ間違えているんじゃないかと思われたかもしれません。一行目にこの「者」という字が二回出てきてますけれども、一回目は前に生まれん「もの」とルビが振ってあって、二回目下の方で、同じ字で「ひと」ってルビが振ってありますね。これ間違いではなくて、このように読むというふうになっておりまして。私たち、この文字を「もの」と読むように認識していますけれども。昔の読み方で、「ひと」という読み方もあったんでしょうね。意味合いとしては、前に、先にまれた者、先輩というふうに言ったら分かりやすいでしょうか。

先に生まれた人は後に生まれてきた後輩、そういった方を導いてあげなさい。逆にですね、後に生まれた方は、先に生まれていった先輩方の元を訪れて、とぶらへと書いてありますけれども、訪れて、お念仏の教えを尋ねていってください。当たり前だと言われていた先輩方。それが連続して途切れないようにしましょう。なぜならば数限りない迷いの人々が、一人残らず、救われていくためです。といったような言葉が、安楽集に書かれている言葉のとりあえずの意味となります。

(途中略)

私がそもそも都市開教を始めようと思ったのがですね、自分なりの布教とか、自分なりの活動をしていきたいと、そういうふうに強く思いまして。それで、なごみ庵という名前にして始めたんです。お寺の役割というと、皆さんどういったものを思い浮かべますかね?お寺の役割というのは本当にいろいろあると思います。

でもやっぱり本分としては仏教を説き広める、あるいは仏教の精神に基づいた何かしら活動をしていく。それがお寺の本分、もちろんご葬儀とか、法事とか、あとは幼稚園をしているお寺とか、いろいろな活動がお寺にはありますけれども。でも、学生の本分は勉強ですと。なかなかそうでない方は多いんですけれども、それと同じように、お寺の本分は仏教を伝える、あるいはその仏教精神で何か活動をしていくというところだと思います。

よく葬式仏教という、皆さん聞いたことがありますかね?葬式仏教。大体お寺を揶揄するときに使う言葉ですけれども、私は別に葬式仏教というのは悪いことじゃないと思います。人生の最後の儀式の場を担う、そういうものはですね、なかなか他にないんじゃないかと思います。

私の親しき方が亡くなって、若くして亡くなって、お葬式に行こうと思ったら、いわゆる無宗教葬、人前式というやつだったんです。私は何式でやろうと、第一正装はこの格好ですから、この服装でいったらですね、他の人はもちろん黒いスーツ、喪服を着て、大体この頭で黒いスーツで来たら見栄えが悪いですね、こっち側の方と思われてしまうかもしれませんから、私はスーツはなるべく着ないようにしているんですけれども。人前式、知り合いのお葬式にこの姿で行ったんです。来客席に座っているんですけれども、時間になったら、喪主さん、ご主人が挨拶をして、後はあちらでお食事どうぞという、それだけなんですね、周りにいらっしゃる他の、若くして亡くなってますから参列者が多かったんですけど、みんなは救いを求めるように僕のことを見るんですよ。何も儀式的なものがないと収まりがつかないんでしょうね。

だからお前なんとかせいよという感じの視線であちら、こちらから見られるんですけれども。僕も勝手にお経をあげ始めるわけにはいかないですからね。おとなしくしていたんですけど、それだけやっぱり仏教でも神道でもいいんですけれども、何か歴史に裏打ちされた儀式というものが用いる力というのがあるんだなというふうに、そう感じました。

(途中略)

私は少し珍しい経緯をたどっておりますし、先ほど申し上げた死の体験旅行というのは、これまたですね、メディアに取り上げられやすいんです。坊さんがワークショップというものをしている。そのタイトルが死の体験旅行なんていう、けったいなタイトルですから、わりと新聞とか、いろいろメディアに取材を受けたことがあるんですけれども。その取材の中で浦上さんは仏教、浄土真宗のどういったところに魅力を感じているんですか?どういうことをされたいんですか?と聞かれることが割と多いんです。

それを聞かれると私は困りますよね。どうしてかというと、自分が良いと思っている、この浄土真宗の教えを表現しづらいんですけれども、どういうことかというと、浄土真宗の教えは、ご利益を説かないんですね。ご利益、こちらの寺でもそうですし、私は今朝起きて、もうちょっと駅寄りのホテルに泊まっていたので、朝、東別院にお参りさせていただいたんですけれども、どこの浄土真宗のお寺に行ってもですね、例えば門前に安産祈願とか、学業成就とか、そういうのぼりが立っているのを見たことがありますよね。お寺の中に入って、例えばお正月だから絵馬とか破魔矢をくださいとか、あとはお札をくださいっていっても、うちはありませんというふうに言われます。浄土真宗というのはあらゆる宗教、あるいは仏教の宗派で、珍しくご利益というものを説かない教えになってます。

ご利益って他の表現をしますと、除災招福という言い方をして、文字通りですね、災いを除く、病気にかかりませんように、火事にあいませんようにというのが除災です。招福は福を招くですから、子宝に恵まれますように、受験に合格しますように、そういった祈りが除災招福と言うんですけれども、浄土真宗はこれを説かない。質問している記者さんとしては阿弥陀さんに、南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏とお参りをすると、病気にもかかりませんし、いいこともありますよと言った方が、向こうとしては、腑に落ちやすいんだと思います。

浄土真宗で、南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏、といくら言ってもそういうことは起こりません。その時点で相手としては?です。なんだメリットがないのかと。さらにこれは私の受け止めですけれども、阿弥陀様の前に立たされて、南無阿弥陀仏とご念仏を唱えていくことで、自分自身のいたらなさ、不完全さが知られる。知らされる。仏様の光に照らされて、自分はあかんな、不出来だな、そういうことを知らされる。そこに魅力を感じます。

なんて言うとですね、記者さんとしては、頭の上に?マークが浮いているのが見えるんです。大体その発言はですね、カットされて、その記事にならないんですね。非常に難しいな、伝えるのは難しいなと思うのですけれども、ただただ難しいなだけですと、しょうがないですから、私なりにお伝えしようと思って、これは浄土真宗だけでなくて、この仏教の根本的な教えの一つですけれども、四法印というところを読んでいきたいなと思います。

(その後、続く・・・・・・。)

法話の全文版をほしい方は、お気軽にご連絡下さい。一冊差し上げます。